

## 夢を追い求め、自立する

彼は、父親を知らない母親の私生児として生まれた。母親は20代で子どもが欲しくて結婚を望んだが、果たせず中絶したこともあった。30歳になって焦った母親は、出会った33歳の男性との恋に落ち、彼を受胎した。しかし、事情で結婚には至らなかった。中絶の経験と30歳の年齢を思い、これから子どもをもうけなくなる懸念から、周りの反対を押し切って彼を産んだ。事情で養育費はなしで、男性は彼を認知してくれた。

母親は彼が一生片親で育つため、厳しく育てた。しかし、その男性は、彼にとっては自分のアイデンティティに関わる父親である。そんな父親に会いたいことも、せめてどんな父親だったかを、厳しい母親に怖くて聞けなかった。母親は必死に働き、彼ことを考えて祖父母の家の隣に、家も建てた。しかし、仕事と育児の疲れで、酒に浸ることが増えた。勉強しない彼に腹を立て、酔った勢いでランドセルを2階から投げ捨てたり、近所も憚らず夜中大声で、彼を怒鳴りつけたりした。彼は堪らず夜中、隣の家にも眠る祖父母に助けを求めたことが度々あった。

そんな母親でも彼は大好きだった。ところが、彼が小学校5年生の夏の深夜、酒を飲んで帰ってきた母親は、翌日の食料を買いに近くのコンビニに行き、降りしきる雨で視界が悪く、交通事故に会い、亡くなった。

泣きじゃくる彼を見て、周囲は彼の不遇を哀れんだ。70を過ぎた祖父母が里親となり、母親が自分の死と引き換えに残した財産を、後見人の弁護士が管理した。2組の叔父、叔母夫婦も彼の世話をした。彼は自分を憐れんで、心配して世話してくれる周りの人達の行動を、当然の如くの行動と受け止め、次第に人への感謝の気持ちを忘れていった。それを証明するかのよう、小学校からの申し送り書では、小学校の児童クラブでは彼は、王様のように周りの子を従えいたこともあったと報告されている。

加えて、母親を失い、たった一人で住む寂しさや心の空虚感を埋めるために、彼はオンラインゲームを覚えた。ゲーム仲間からの称賛に、渴望した承認欲求が満たされた。加えて、中学校に入りソフトテニスを覚え、ゲーム以外にも充実感を見出した。2年の夏休みから部長となり、友達や後輩の指導に楽しさを覚えた。

ところが、3年の夏にその部活も終わり、周りは進学のため塾の夏期講習に騒ぎ始めた。1学期の期末試験で250点中184点を取った彼は、夏を終えた9月の学力調査で125点。得意の数学が17点と最悪だった。隣市の県立工業高校で建築を学び、大工となる夢が、無残に散った（と、彼は思いこんだ）。10月、学校に行く意味を失った（と、思い込んだ）彼は、不登校になった。

不登校になった彼は、オンラインゲームで偶然に、17人のクラスでたった5人しかいない男子同級生の一人・Y君と知り合った。しかも彼は、部長をしていたソフトテニス部の部員で、練習ではすぐ諦める子で、走るのも苦手な子だった。テニスボールを打つのは上手な彼は、そんなY君を注意することが多かったことから、彼は「周りからは、Y君と僕は仲が

悪いと思っっているようですが」と、後見人宛の手紙で話している。

更にその手紙で彼は、「僕が変わってきた時の多くはY君が関わっていましたから、けんかも多かったですが、その分Y君は（僕に）手を差し伸べてくれました。『けんかするほど仲がいい』ってやつです。」と言う。しかし、Y君の父親の話では、当時YはそれほどZ君と深く関わっていなかったとのこと。

続けて彼はその手紙で、「不登校になってから、ラインで（Y君と）ちょっと話をしました。ちょっとだけでも、とてもうれしかったんです。これが友なんだと思いました。」と述べ、<唯一の友、Y君と繋がるパソコン>と仕立て上げ、後見人にゲーミングパソコンの購入をこり押しする意図が明確だった。

父子家庭のY君は、2年の6月頃から不登校になり、3学期は別室登校。3年になりY君は、16万ほどするゲーミングパソコン購入を条件に、5月の修学旅行から暫く学校に行くが、6月から再び不登校になった。そのゲーミングパソコンでゲームにはまり、ゲーム上で彼と再会した。

年が新まった正月、彼は偶然、「五等分の花嫁」（「落第寸前」「勉強嫌い」の美少女五つ子をアルバイト家庭教師として「卒業」まで導くことになった「風太郎」の物語）を買った。彼はその風太郎に憧れた。一緒に困難を乗り越え助け合う、そんな教師になりたいと思った。そのアニメに彼は夢を見つけた。彼はその時、高校（通信制）→国立〇〇大学（教育学部）理科 or 数学→免許取得という、明確な夢を描いた。

時は既に遅く、彼は普通高校進学を諦め、通信制高校しかないと認識していた。しかし、そんな夢を担任や祖父母に伝えることもなく、昼夜オンラインゲームにのめり込んでいた。そして、卒業後の進路を決めることなく、中学校を卒業した。それどころか、母親が残した財産があることを知っている彼は、里親である祖父母に対して、自分の誕生日（3月30日）プレゼントとして、30万円相当のゲーミングパソコンを要求し始めた。

対応に困り果てた中学校のスクールカウンセラーが、祖父母と共に私の所に相談に来られ、私の対応が始まった。県立高校の通信制課程の入学申請締め切り日の3月27日のことだった。

まずやるべきことは、もう就職もできない彼を、高校に籍を置くことだった。当時年間35～100万円程かかる県内の私立通信制高校入学は避け、提携する通信制高校のeラーニングコース（特別契約で年間授業料が10万円程）入学の手続きを始めた。

そして、彼が最も信頼していて話しやすい先生と言う、彼の2,3年の担任だったU先生にお会いして、今後の対応を相談した。U先生は学生の頃、当グループの学習塾の講師をして頂いたという縁があった。彼が要求しているゲーミングパソコン等のリストと彼の手紙を見せると、U先生から「彼の思考は、ゲーム依存云々ではないですね。彼は、Y君のハイスペックなパソコン相当のゲーミングパソコンを要求していますよ。しかもこの手紙では、彼の思考がゲーミングパソコンと命を天秤にかけて語ってますね。」と言われた。結果、先にU先生が彼と会って、彼がまずは私と相談して進路と今後の学習計画を決め、それを実行し

てから、パソコンの話を後見人と話し合うように伝えることになった。最終的にゲーミングパソコンは、彼が望む最低限度のものを後見人と相談すればいい、という方針で話すことになった。U先生は、彼が18歳になれば、母親が命と引き換えに残した財産をどう使おうが自由になるが、その結果は彼が負うことになる、と言われた。

U先生が彼と会った数日後の4月中旬、彼は予備校に入学し、私が立てた週間学習計画に従い、毎日予備校に通い、週2日は通信高校のレポート指導を受けるという体制を整えた。そして彼に、里親と後見人にその旨の誓約書を書かせ、私の知人に頼んで11万円程にスペックを下げた(しかし、十分彼の望む技術に対応できる)ゲーミングパソコンを買い与えた。

しかし、彼はその誓約書をただの紙切れ如く扱い、そのゲーミングパソコンで再びオンラインゲーム三昧の生活を始めた。そればかりか、パソコンのスペックを上げるべく2万円、4万円と、里親にお金を出させる始末。

そこで、里親と後見人のご了解の上で、月末の夕方、提携する寮生活しながら自立支援している代表のx氏と共に、彼の部屋に乗り込んだ。ゲーミングパソコンでオンラインゲームをし続け、全く話し合いに応じない彼の態度に、x氏は階下に行きブレーカーを落とし、彼と話し合いを始めた。途中、話し合いをx氏に託し、私は退席し、控えている里親に状況を説明しに行った。30分程して、彼は誓約書通りに自己管理できない自分を認め、教師になる夢の実現に、氏の寮に入寮し、生活を立て直す決断をした。入寮手続きをし、身支度を整え、里親の祖父母に、これまでの無理難題な言動を謝罪し、入寮の決意を述べ、17時過ぎ、氏のワゴン車に乗って寮に向かった。

寮での最初の1週間は、生活に慣れるため、何のプログラムも行わない。2週間目の5月連休明けから担任が付き、本人と話し合いながらプログラムを進めていく。勿論、インターネットを通じて行う予備校の授業の受講も取り入れられる。通信制高校の勉強も、入学手続きの完了を待って3週間目からプログラムに組み込まれる。しかし、本人写真の不備等で入学手続きが2週間遅れ、そのため第1回目のレポート提出締め切りが迫り、10日で6科目のレポートを仕上げ、締め切り日当日に郵送した。内容は優秀だったと、高校から連絡を受けた。

その週末、彼と担任と一緒にzoomで面談した。プログラムが30分単位で、1コマ90分の予備校の授業が十分できないと、彼は訴えてきた。しかし、担任からは集中力がなく、勉強以前に、寮生はみんな年上で色々と面倒をみてくれるが、それに対する感謝の言葉がないなど、人間としての根本の問題を指摘された。担任も私同様、周りの人の親切は当然の如くの行動と彼は受け止めているのではないかと感じ取っていた。それ故、担任も日々のプログラムの中で、そのことを踏まえ彼を指導しているとのことだった。

一方、彼の中では、母親の死去以後4年間、祖父母に注意されても構わず、欲望のままの生活をしてきて、初めての先輩たちとの共同生活で、不平不満が少しずつ溜まり始めていた。担任や先輩からの言葉を聞くふりをし始めると、一つ年上の同じく通信制高校生の同調を受け、自分が抱き始めてきた不平不満が正当化してきた。

そして遂に、7月18日の夕方、それまで溜まった不平不満をA4の紙にびっしりと書き残し、同調したその高校生と二人で一銭の金を持たず、寮を出て行った。スタッフは手分けして思い当たる所を探したが見つからず、20時前にそれぞれの保護者と私に連絡し、警察に捜索願いを出し、再び捜索した。

その間二人はヒッチハイクで、まずは近い年上の高校生宅を目指した。高速道路のSAで見知らぬ人に夕食をご馳走になり、そこで夜を明かした。翌日、厳格な高校生の母親を恐れ、里親は別棟で生活し、彼の家は彼一人のため、遠くとも彼の家に向かうことにし、ヒッチハイクを続けた。途中道が分からず、交番を尋ねたが、寮の県外にいたため、捜索は及んでいなかった。その日もどこかのSAで寝たらしい。相乗りと食事に、何人もの見知らぬ人にお世話になったらしい。2日かかりで20日20時頃に、彼の家に辿り着いた。祖父母はすぐに担任に連絡したが、寮の迎えが来ないように、彼は祖父に暫く彼の家に居させる旨を言わせた。

担任から私に連絡があり、担任と寮の別の職員2人で彼の家に向かった。私も祖父母に電話を入れたが、彼から強く電話に出ないように言われたらしく、出なかった。寮のスタッフと連絡を取りながら、24時前に彼の家で落ち会った。祖父母宅と彼の家は真っ暗だった。何度も祖父母宅に電話したが、その電話の音は外に漏れ聞こえたが、電話に出なかった。飼った犬の吠える声で、もう一つ別の棟で寝ていた祖母が出てきた。幸い彼の家は施錠されていなかった。2階で寝ていた二人を起こして、話し合いを始めた。

程なくして、年上の高校生は彼の家から出て行き、迎えのワゴンに乗り込み、彼を待った。彼は私と担任と、そもそもどうして入寮したのかから一つ一つ確認する話し合いが行われた。担任は、入寮の意義に、日頃から話してきた勉強以前の人への感謝、礼儀のなさの改善を強調した。人を教える立場になりたいなら、それは一番大事なことで、この家にいて一人でそれをできるかを問うた。この二日間だけでも多くの人にお世話になり、また、祖父母にも大変心配を掛け、しかもこんなにも深夜に私まで来て貰った。世話になった人にお礼を言ったか、家に着いて直ぐに心配を掛けたおじいちゃん、おばあちゃんに詫びたか、今夜私に会って最初にお詫びと感謝の意を示したか。彼は黙って下を向いたまま、一回も顔はしなかった。これが不遇な境遇の中で過ごした子の姿である。担任はよく彼を観てきた。

私は彼に、自己管理を問うた。1時間半程して私は、翌朝（と言って、もう翌朝になっていたが）早々に仕事があるため、担任に託して帰宅した。それから間もなく祖父母も加わり、3時半まで話し合いが行われ、入寮の意義を再確認し、寮に戻った。朝6時半、担任から私の帰宅後の話し合いの報告を受けた。

午前中は部屋で休むことを許された彼は、午後私の携帯に電話をくれた。「寮に戻りました」との報告以外の言葉はなかった。

それから、彼は3年間の寮生活で国立大学進学を決めた。夢を追い続けていた。